

## ○網野光議長

次に、関直子議員の市政に対する質問をお受けいたします。

11番 関直子議員。

〔関直子議員登壇〕

## ○関直子議員

11番関直子です。久喜市の子育て支援の取り組みについて質問します。

少子化が社会問題となって、随分と時が流れました。状況は好転する気配もなく、増々、深刻化しています。若い人たちが、夢や希望を持ち、家族を増やしていこうと思える社会を作っていかなければなりません。

現状を省みれば、女性の社会進出が目立ち、責任ある要職にも登用される時代となってきています。それ自体はとても喜ばしいことです。しかし、仕事を優先させるあまり、結婚や出産年齢が年々高くなってきているのも事実です。

私の長女が助産師になり、早3年が過ぎようとしています。大学病院に勤務しているため、母体に何らかの異常を抱えている妊婦さんのお産を扱っているようです。日々新しい命の誕生に喜びを覚える半面、出産時に命を落とす現場に立ち会う機会もあるそうです。また、高齢ゆえのリスクを伴う出産も数多くあるようです。20代での出産が望ましいとは分かってはいても、なかなかうまくいかない社会状況になっています。

しかし、安心して子育てできる環境を整えていけば、将来危惧されているような消滅都市にはならないことでしょう。みんなが楽しく協力し合って子育てできる環境が必要です。若い人たちにとって魅力ある街づくりをすることにより、流出を防ぎ、逆に呼び込めることになるでしょう。

そこで、私は久喜市の子育て支援の取り組みについてお伺いします。

- (1) 少子化を改善する具体的な施策はありますか。
- (2) 保護者の仕事と育児の両立を助ける病児保育のニーズと、その稼働率はどうなっていますか。
- (3) 安心して子育てできるまちづくりとして、久喜市ならではの取り組みはありますか。また、今後の課題と、努力点はどんなところですか。

最後に、私たち人間にとって、子どもを産み育てることはとても重要なことであり、最優先すべきだと認識してほしいと思います。そして、出産年齢は限られて

いて、そう長くはないということ。だからこそ、周りの人達の理解は不可欠であること。安心して子育てができるよう法整備も必要です。子育てしながら親として成長していける素晴らしさを、一人でも多くの人に知ってもらいたいと思います。また、不妊対策にも力を入れ、望ましい出産が数多くできるよう努めていただきたいと思います。

私の質問は以上です。

#### ○網野光議長

関直子議員の質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔田中暄二市長登壇〕

#### ○田中暄二市長

関直子議員のご質問に対して、順次ご答弁申し上げます。

はじめに（１）でございます。

近年の我が国の少子化は、家族観や結婚観の変化に伴う晩婚化や未婚化、非正規雇用の増加、仕事と子育ての両立が難しい職場環境、さらには、核家族化や都市化による地域連帯感の希薄化により身近な人からのサポートが受けにくくなっている状況など、様々な要因が複合的に作用していると言われております。

このようなことから、本市におきましては、認可保育所や放課後児童クラブ、地域子育て支援センターの施設整備をはじめ、保育サービスの充実や乳児家庭全戸訪問事業の実施、子ども医療費の支給対象年齢の拡大などを行ってまいりました。このほか、各種相談事業や地域子育て支援センターをはじめとした各種センター事業の実施など、社会全体で子育て家庭を支え、身近な場所で交流や相談ができる環境整備に取り組んでまいりました。

このように、市民の皆様が安心して妊娠、出産、子育てができるような環境づくりに努めることが、少子化対策につながるものと考えております。今後、新たな事業として不妊治療費の助成事業につきましても、実施の方向で検討してまいりたいと考えおります。少子化対策への取り組みを一層推進してまいります。

次に、（２）でございます。

本市では、平成27年度からの5年間を計画期間とした「久喜市子ども・子育て

支援事業計画」を策定するにあたり、平成25年度において、就学前の児童を持つ保護者3,000人及び小学1・2年生の児童を持つ保護者1,000人を対象に「子育て支援に関するアンケート調査」を実施しております。

この調査におきまして、子どもが病気であった場合の対応として、「病児・病後児保育の施設等を利用したい」と回答した保護者の割合は、約40%でございました。本市では、このアンケート調査の結果から、病児・病後児保育事業に対する保護者のニーズは高く、また事業の必要性も高いと判断し、本事業を実施すべく準備を進め、平成27年10月1日から、土屋小児病院の病児専用の保育室において、病児・病後児保育事業を開始したところでございます。稼働率でございますが、平成27年10月15日現在、利用者は1人、利用にあたっての事前登録者は63人でございます。

次に(3)でございます。

本市の特色のある取り組みといたしましては、出産直後の母親にホームヘルパーを派遣し家事や育児援助をする「久喜市子育て支援ホームヘルパー派遣事業」をはじめ、病気や出産などで、一時的に子どもの養育ができなくなったときにお子さんをお預かりする「子どものショートステイ事業」、心身に障がいや発達に遅れのある児童に遊びの場を提供する「おもちゃ図書館事業」などがございます。

今後の課題と努力点でございますが、本市が平成25年度に実施しました子育て支援に関するアンケート調査では、「子どもや親子の遊び場」、「保育所や放課後児童クラブ」の充実など、子育ての環境や支援に関する多くのご意見をいただいております。

本市では、これまでも子どもや親子が気軽に足を運ぶことができる、安心して遊べる公園や児童センター、地域子育て支援拠点など、子育ての環境や施設の充実に努めるほか、老朽化した保育所の改修や放課後児童クラブの定員枠の拡充など、保育を必要とする児童に対し適切な施設整備を進めてまいりました。

今後につきましても、アンケート調査の結果をはじめとした市民の皆様の声を伺いながら、各種子育て支援施策を推進し、より一層の子育て環境の充実に努めてまいります。

## ○網野光議長

以上で、関直子議員の質問を打ち切ります。